



Reincarnation Liberal Arts

転生自由七科

The Life Change

- 人生100年時代の命運転換プログラム -



session 2

## 命運を変えて幸せに生き切る方法

柳田：皆さん、こんにちは。

石崎：石崎絢一です。

柳田：ナビゲーターの柳田厚志です。そして今回も七沢研究所から大野さんに来ていただいています。大野さん、よろしくお願いします。

大野：よろしくお願いします。

柳田：ということで石崎さん、セッション2ということになりました。

石崎：そうですね。

柳田：前回でも大反響いただいておりますけれども。前回、最後の締めとしては、今は現代人、日本人、特にこれからの人生どうなっていくんだという不安がある中で、われわれの提案としてはライフシフトじゃなくてライフチェンジだと。

石崎：そうですね。

柳田：そして、ライフチェンジというのはもう命運すらも変えてしまうことだということで。

石崎：そうですね。





柳田：今回のもう一度、スライド出していただけますかね。今回のメインテーマが転生自由七科 **THE LIFE CHANGE** 人生 100 年時代の命運転換プログラムということになっておりますけれども。そういったテーマで話してきて今回は二回目ということで、こちらです。セッション 1 の最後に出てきた命運ですね。それを変えて幸せに生き切るということですね。よろしくお願いします。

石崎：よろしくお願いします。

柳田：まず命運について聞いていく前に一つ、こちらご覧いただきたいんですけども。時間の流れは一方通行ではなく、過去から未来、未来から過去に流れるという、ワシントン大学教授のお話なんですけども。こちら、石崎のほうちょっと説明していただけますか？

石崎：そうですね。こちら見えている世界っていう部分で言うと、皆さん慣れ親しんでいると思いますけれども。今、科学の世界では量子物理学ですとか、そういったところがこういう見えない分野を扱っているわけなんですけども。

そこの世界では、本当にこの四次元界ですね。四次元というのは物質空間プラス時間の中でとかれているようなものとは違う動きが見えていたりするわけです。だから非局在と言って、分離されてなくて全員がつながっていたりですとか。過去も未来も同時に折りたたまれていたりですとか、パラレルワールドがあるとかですね。そういうことまでずっと扱われているわけなんですけれども。

こういう権威ある方がそういった視点の中から、こういう形ですね。時間っていうのも今だけじゃないんだよと。未来も過去もあり、しかも同時に流れ込んできているっていうね。こういう事をおっしゃっているわけです。

柳田：普通は一方通行というか、過去から未来。過去・現在・未来というような流れですけれども。

石崎：そうですね。

柳田：未来から過去にも流れてくる。

大野：未来から過去に流れるっていうのは当たり前っていうか、例えば身近な例で言いますと、今から家を出て何時何分の電車に乗ろうと決めた場合に、その何時何分って未





来があるわけです。そこから自動的に逆算しているんですよね。  
つまりその人の意識時間の中でもうそれを決めた瞬間に、未来から過去に、過去っていうか今にもう流れているっていうのが一般的なんですね。

柳田：なるほど。

大野：ですから、それが別に何時何分の電車じゃなくても、このときにこうしようと決めたら、そっちからこっちに向かって時間が流れるんです。

ただそれがいくつもあるとぶれて。例えば物事を実現する場合に、このときにこうするというふうに未来像を描いて、そこからこっちに時間を流し続ければ実現するという法則があるんですけども。一般的にはそこがどンドンぶれていくので、そうはならないと思いますね。

柳田：なるほど。この辺りの考え、研究所では当然というか当たり前の認識なんですけれども。こういった教授も言っているということですね。

石崎：そうですね。

柳田：もう一つ、こちら教授が言っている話なんですけれども。今回、転生ということもキーワードとして出しておりますけれども。こちらですね、意識は量子レベルのエネルギーであるために転生の説明は科学的に可能だという事を、バージニア大学のジム・タッカー博士が言っているということですね。

経験したはずのない出来事の記憶や前世の傷やあざなどを持つ、輪廻転生したと思われる 2500 人の子どもたちに調査をしたということですね。こちらは石崎さん、大野さんか。

大野：そうですね。インドとかチベットでは当たり前ですけども、近年というか、近年って言うてもだいぶ前からですけども、アメリカでも前世療法ですとか、あと今お話あった事例のように、だんだん当たり前っていう感覚になってきているかなと。同時にそれは前世があって現世があるということは、未来生もあるってことですよ。スライドすると。

柳田：これも研究所ではもう当たり前の話なんですけれども、こういった大学あるいは西洋のほうの研究者であつても言っているということ。たまたまちょっとここにあった





本が。なぜ人は生まれ、そして死ぬのかという本を書かれた方も、バージニア大学の教授だったので同じだったんですけれども。

石崎：そういうことですね。

柳田：こういったかたちでわれわれ言っている事も今回、こういうアカデミックな分野であっても今、当たり前という認識になってきている。

石崎：そうですね。ひと昔前は権威ある立場の方って、こういう事、語ってくれなかったと思うんですよ。やっぱり自分の地位とか、そういうのに影響及ぼすんで。ですけどもここ近年、立場ある方々が本だとか普通にインタビューで過去生があるとか、輪廻転生はあるとか未来生があるみたいな事を言いだしてきているんですよ。いたずらに目立つために言っているとは思えないもんですから。

柳田：そうですね。そうすると当然、過去生・未来生含めて今回の人生生き切るというテーマで話しているわけなんですけれども。そうすると、次の今回のセッションのテーマにも入ってくるんですけれども、命運についてちょっと深く聞いていきたいと思うんですけれども。改めてちょっと聞いてみたいと思うんですけれども。

大野：命運っていうのは運命と同じ事ですよ。以前もどっかでお話しましたが、命運っていうのは力の弱い強いっていうのがありまして、つまり命、運、方、相と分けるんです。一番上が命といいまして、これ生年月日で決まる世界です。命運方相の相の分だけ言いますと、手相とか家相とかお墓の相とかありますけども、あれもある種の命運なんです力が弱いんです。

ですから、生年月日でだいたい運命っていうのは決まっちゃうんですよ。

ところが、人間にはやはり自分が知覚できない先天の意志があるんじゃないかと考えられるわけです。ですから、その先天の意志で自分はこの生年月日に生まれて、こういう人生を生きようというふうに決めたという可能性はあるわけです。

柳田：なるほど。石崎さん、どうですか？

石崎：そうですね。さっきの占いの話になるんですけれども、私がちょうど十数年前ですか、ちょっとけっこう人生がはずんだ時期がありまして。やっぱりいい事ばかり続かないですよ。そのときにいろいろあがいて、インドの占星術師のけっこう有名な方が来日して見させていただくこと、機会があったんですよ。





ことごとく当てまして、私のやってきた事を。でもびっくりしたのと同時に、これから石崎さん、こういうふうになりますと。それは決していい事言われなかったんですよ。要はちゃんと戻るのにちょっと時間がかかりますよと、痛みを伴いますよって言われたんですよ。そのときずい分、弱っていたから、まだかかるのと。まだ痛み伴わないといけないと、もう嫌になっちゃって。

そのときに大野さんと出会ったわけですよ。そしたら変えれますよと。決まっている流れを変えることができる。だったら変えてほしいじゃないですか。で、学び、実践したら、そのインドのすごい占い師が言ったとおりにならなかったんです。それどころか逆にいいふうになっちゃって、今に至っているわけですけども。

柳田：この話は確かに石崎さんからよく今までも聞いていたんですけども、一瞬で変えれますよと。確かにこの命運っていうことで考えるとすごい話ですね。大野さん、この話は覚えてらっしゃるとは思うんですけども。これはもうまさに、その命運を変えれますよというようなことだったんでしょうか？

大野：うん。そうなんですよね。結局私どもの研究所でやっぱりいろんなデータ集めていますけども、命運っていうのはまず変わるっていうのは、ある種、当然って言えば当然なんです。ただ、その変えるためには先ほど先天の意志というお話をしましたけども、変えるっていう意志がないと変わらないんですね。ただぼやっとしていて、そのままともとの運命どおりいっちゃいますんで。どっかで変えるっていう意志が発動されますと、極端に言うと一瞬で変わるんですね。

ていうか逆に言うと、一瞬でしか変わりようがなくて。いつか変えようっていう気持ちでいると変わらなくてですね。この瞬間、変えるって思った瞬間に実は変わるってことがわかっているわけですね。

柳田：なるほどですね。

大野：つまり今の瞬間の意志というのが全部、未来にも影響与えるわけですからね。その深さの問題ですね。

柳田：なるほど。そうすると私も含めてほとんどの人が、運命っていうのは生まれながらに決まっているというようなところを、なんとなく信じているというか。もちろん、その中でいろんな人生選べるかもしれないんですけど、大枠は決まっているんじゃない





かなと思っっているんですけども、それすらも変えていけるということですか？

石崎：そうですね。それは自分もそのとおりにならなかった、今もありますし。今よくワープとかで僕が口癖のように言っていたのが、どうせそうなるっていう口癖があるんですけど。

柳田：和の成功法則、ザ・ワープのね。受講生には。

石崎：そうですね。何か自分が決めた事はもうそうなると思えないです、今は。けっこう激しい事でもそうなるっていうふうに。激しいっていうのは悪い意味でなくても、自分はそうじゃなくてこうなるんだって決めたらそうなるんですよ。

柳田：これは命運転換法っていうのはもちろん今、この全部、聞く事はないんですけども。その一つが意志というか、言葉とか言霊とか意志っていうのが、命運すらも変えていくっていうことなんですか？

大野：そうですね。この間、サンマークの本にも一部それは書いたりしましたけども、瞬間の意志っていうのが一般的には、皆さん瞬間じゃなくなっているんです。いわゆる思考というか考えてこうしようかなとか、こうしようとかって言っていますけども、実際、物事決めるときは瞬間でスパーンとやるわけですね。

その出し方さえわかれば、それができるっていうことなんですけども。ただし、その出し方にはやや方法といいますか、やり方がありますんで、それはまた講座のほうでお話できればと思いますけども。

柳田：普通の人には、先ほど石崎さんの話で占いという話がありましたけれども、多く、特に女性は占いにはまるというか。

石崎：けっこう経営者もはまっていますよ。

柳田：そうですね。何かあったときに最後の決断っていうか。

石崎：そうですね。意外についていますからね、後ろに。風水師だとか霊能者とかですね。

柳田：ありますよね。





石崎：これやっぱり石崎さんの的になぜはまってしまおうと？

石崎：やっぱり未来を見たいんですね。女性は特に恋愛だとかそういう感性が男よりも敏感っていうのもあって、自分の事知りたいていうのがありますし。経営者に関しては大きなお金が動いたりですとか、責任もありますよね。従業員とかその家族に。

やっぱり迷うわけですよ、判断を。やっぱそれですごい大きな事になっちゃうんで、ちょっと力持った方に、先生どうでしょうかみたいな。今回このビジネスに手だしているでしょうかみたいなことは意外にやっているんですね。

柳田：けっこうこれって自分の命運、運命はどうなんだみたいな。自分でどうしようもないから、未来を聞いてみたいなところがあるのかなと思ったりもする。

石崎：そうですね、参考にしたいんですね。

柳田：参考にしたいみたいな。

石崎：けっこう芸能人の方とかも占いはよく行っているみたいですしね。芸能人の方っていうのは人気なくなったら、もう今の地位から落ちちゃいますから。ある意味、事業をやっている人よりも、もっと厳しい環境の仕事をしてるんじゃないかなと思うんですね。

柳田：特にそういう運とかってのは気にしますよね。

石崎：そうですね。

柳田：自分に来るようになっていうか。これは大野さんにちょっと研究所的な見解というか、占い、多くの方がはまったりしますけれども、研究所的にはどう捉えていらっしゃるんですかね。

大野：究極的に言いますと、占いは禁止みたいなのところもあるんですけども。ただ、どういう捉え方をするかと言いますと、まずいろんな方々の占いにはまるっていうのは、一つはやっぱり占いが当たるからなんですよ。当たる場合もあるというか、そうなるケースがちゃんとあるからこそ、そこにはまる場所があるんですけども。





占いによって何をその人が知りたいのかというストーリーを知りたいですよ。つまり、これから良くなるストーリーかもしれませんが、悪くなるストーリーかもしれないんですけども。ストーリーを聞くと安心するんですよ。

一番不安なのは、わかんないっていう状態が一番不安で、いても立ってもいられない状態になるんですけども。駄目なら駄目で、この後こうなりますよっていうふうに聞きますと対策も立てられますし、安心するんですよ。ですから、そういう側面はあるかなと。

ですけども、それはある意味、自分の大事な意志を人に預けているようなものですから、本来的な特に神道とか言霊っていう世界からすると、もうそれは本当に罪の一つにもなっちゃうぐらいなんです。やる事がですね。ですけども一般的にはしょうがないところもありますし。であるからこそ今回、そこを超えるっていうことをこの際、お伝えしようかと、そういう流れになっているわけですね。

柳田：なるほどですね。前回も出てきたこのストーリーと本物の情報というところですね。もう一つ聞いてみたいのが、こちらですね。お金持ちあるいは美人、成功者っていうのはなんで生まれるのかというところですね。

大野：要は先天の意志としては生年月日で美人とか決まっちゃうけれども、その後の後天の意志によっても変わるんだっていうことです。

この部分の教えが全くないんですよ。もう決まっちゃっているっていうのがけっこう一般的なんですけども。ですからそれを、まずそれがあるということと、それを発動する方法があるっていうことを言いたいわけです。

柳田：なるほど。つまり今回の本当にテーマでもある命運を変えていくということだと思えるんですけど、じゃ、この先天的にももちろん決まっている部分もあるんだけど、後天的にも変えていけるよという。これは希望が持てますよね。

石崎：そうですね。

柳田：そのやり方もあるんですよという大変興味深い話なんですけれども。この後、ちょっと命運を変えられた方ということでゲストの方にもお話を伺いますけれども、見ていただきたいなと思うんですけども。





私たち本当に話を総合すると、もちろんそういう命運というものはある。だけれども、変えていけるっていう事を知らないというか。だからもう駄目なんじゃないかみたいな。

石崎：大野さんがおっしゃったように変える方法がなくて、そのライフデザインとか。講座いくらでもありますよね、お金持ちになる勉強会とか手法とかありますけれど、あと心理学とかですね。

でも根本的に定まっちゃっているもの、過去生とかから引きずってきているものまではなかなか影響を及ぼさないっていうのは、この現世で行われているいろんな手法だと思うんですけども。そこを変えないと本当のライフチェンジにならないと思うんですよ。だから今回そこまで踏み込むっていうことです。

柳田：そうですね。

石崎：表面的に健康だとか精神的にどうだとか、お金がどうだとか人間関係がってやっても、根本をいじくりましようっていうとこだと思うんですよ。

柳田：ですよね。そこを変えたら、望んでいたその表面上の部分も全部、ぱたぱたと変わっていくよっていうところですね。

石崎：そうですね。

柳田：ですからぜひ興味ある方は、セミナーのほうまだまだ募集しておりますので来ていただきたいと思うんですが。では、この後ちょっとゲストとして、石崎さんのほうからご紹介いただきたいんですけども、吉川社長という方。

石崎：そうですね。非常に成功されている方ですね。成功者の方、経営者の方ですね。ある有名な日本を代表するコンサルタント、本当、大企業とかもそこにお世話になるような所の十何人衆の一人ってことですね。その方自身がそのトップの方に代わってコンサルを面倒みたりですとか。

あと地方でトップクラスの売り上げ、社員の教育もそうですし事業の多様性もそうですし、右肩上がりですね。グラフとか見ていると。社内にグラフが貼ってあるんです。こんななっていますから。なんでそれ貼っているんですかって、銀行に見せるため。銀行が来たときに、そのグラフを見てここだったら融資をしようと。





それも非常にユニークな方です。人間的にも全然高慢じゃありませんし、非常に柔らかい方なので、まさに新しい時代の成功者じゃないかなっていうふうに思います。

柳田：ゴミも拾うっていう。

石崎：そうなんです。ものすごく成功されているのに、例えば出張先のホテルに行くまで、駅降りてから落ちてるゴミ全部拾うそうです。

柳田：なかなかできるもんじゃないですよ。

石崎：やれないですね。私も初めてお会いしたときにちょっと度肝を抜かれまして。ここまで成功している人がゴミを拾って、袋持っているんですよ。ローソンとかの袋に入れているんです。リュックサック背負っていてそこにに入れてんです、こうやって。そこから出てくるんですよ、トンブが。

柳田：すごいです。これでも実践するのはすごい大変だと思うんですけども、すごいですよね。

石崎：そうです。

柳田：そういった現実界のビジネスでもすごく大成功されていて、そういう見えない部分っていうのもしっかりわかってらっしゃるという方で、吉川社長にちょっとインタビューをしたものを見ていただきたいなと思います。

柳田：はい。ということで、スペシャルゲストに来ていただいて、ここからお届けしたいと思うんですけども。お二人来ていただいております。まず、メインとなる吉川社長に来ていただいています。吉川さん、よろしくお願いします。

吉川：よろしくお願いします。あれ、ゴミがなんか。いけないですね。よいしょ。よいしょ。はい。拾わせていただきました。

石崎：趣味がゴミ拾いということで。

柳田：本当でしたね。





吉川：そうなんです。

柳田：噂は聞いていましたけれども。ゴミ仙人というふうに。

吉川：そうです。変人です。

柳田：でも、北関東の虎とも言われて。

石崎：そうですね。事業はバリバリでちょっとやそっとの人じゃ吉川さんにはなれないんじゃないかなというレベルでやられていますね。

柳田：ちょっとスライドを見ていただきたいんですけど。1枚目がゴミを拾っている。これ、本当に常にゴミを拾われているということですか。

吉川：そうですね。いつも左ポケットにはゴミ袋が入っていますね。ですから、これを拾ったやつをこうやって入れると。僕、タバコ吸わないんですけど、いつもタバコくさいんですね。ここにタバコが入っているんで、だいたい。はい。っていう変人です。

柳田：でも、本業というか事業はものすごい大成功されていて。

石崎：ものすごいですよ。私もいろんな方とお会いしていますが、柳田さんもいろんな成功者の方に出会っていると思うんですけど、ちょっといないんじゃないかというレベルの人ですよ。

柳田：そうですね。すごいですよね。

石崎：すごいですね。

柳田：事業家としても素晴らしいですし、そういうゴミも含めて普段の活動というのも素晴らしいですけども。そして、すみません。お隣が七沢研究所の上席研究員の石原政樹さんです。よろしくお願ひします。

石原：よろしくお願ひします。

柳田：ちょっと石原さんのご紹介もあれだったんですけども。石原さんも大野さんに





次ぐというか、本当に研究所で欠かせないというか。ザ・ワープのほうでは非常に大人気の講師なんですけれども。そういった形の関係で。一番研究所で、今、吉川さんと密に連絡を取り合っているということですよ。

石原：大変お世話になっています。というか、楽しませていただいています。

吉川：LINE 友達です。

柳田：ということで、このセッション。スペシャルゲストの時に来ていただきましたけれども。隠れていますけど、大野さんもちゃんといらっしゃいますので、ご安心いただければなと。大野さん、よろしくお願いします。

大野：よろしくお願いします。

柳川：ということで、この5人でちょっとトークしていきたいんですけども。今回のライフチェンジというテーマ、そしてこのセッション2は命運を変えてというテーマですけれども、そこにぴったりのゲストということで吉川社長に来ていただいたわけなんですけれども。石崎さん、どうでしょう。

石崎：いやあ、本当に適任だと思うんですよ。皆さん、吉川さんがこれからどういう事業をやられているのかとかお話していきますけど。もともとはスーパーで魚を切っていたというですね。魚屋さんだったと。

柳田：これ、何歳ぐらいの時ですかって言いながら、履歴書が出てきましたけれども。

吉川：大学卒業してすぐ新卒で地方のスーパーマーケット入って、1年半魚屋さんやっていたんですね。鮭切っていました。

柳田：その時は事業家になろうとは思っていたんですか。

吉川：おぼろげにはやっぱりありましたね。社長になりたいというのは前からあって。うちの父も母も事業をやっていたので、そういう関係でありました。

柳田：そこからどういうきっかけで。

吉川：そこからうちの父が古本屋さんやりたいてって言い出して。僕もこのままスーパー





マーケットにいても先は思いやられるなど。店長になるまで 20 年かかるって言われていまして、これはちょっとと思って、うちの父がやりたいって言っていた古本屋さんのフランチャイズ、そこを研究して、その直営店にアルバイトとして入ったら、半年ぐらいでノウハウ分かって、これだったら俺がやったほうがうまくいくなと思って、ノウハウちょっとだけいただいて独立して 24 歳の時やり出しました。それがスタートです。

柳田：今の話でいうと、魚屋さん、スーパーで店長にもなろうとも思っていたという。

吉川：そうですね。それも 1 つ。

柳田：そういうストーリーというか、そういうのを描いてたわけですね。

吉川：そうです。そうです。そうです。それがあまりにも長過ぎるんでってことでしたね。

柳田：命運を変えてと。

吉川：ですね。

石原：すぐに、もう納税者番付ですか。

吉川：はい。26 歳の時ですね。

石原：それ、本当、ライフチェンジですよ。

石崎：26 歳の時に。当時まだありましたものね。長者番付というのが。

吉川：そうですね。ちょうどその時が 2000 年だったのかな。長者番付があって、新聞に載っちゃったんですよ。

石原：20 年で店長のはずが 2 年で長者番付。

吉川：そうです。そうです。

柳田：確かにライフチェンジです。ものすごいライフチェンジです。





吉川：だから、ちっちゃな街の人口 1 万 5,000 人の街で、2 番目のお金持ちになりました。

石原：すごいですよね。

石崎：すごいですね。

吉川：いえいえ。

柳田：そこからどのような展開をされてったんですか。

吉川：そこから事業、それからずっと多店舗展開をしていて、離婚をして。

石崎：それもライフチェンジ。

石原：いたるところにライフチェンジがある。

吉川：本とか DVD って 2005 年ぐらいでもうマーケットが小さくなるって言われていたんで、古着とかやってみようかっていうことで、古着事業とか、貴金属のリサイクルとか、そういうのに参入して、整骨院やったり、今度はセミナー事業やったりっていうことで、本当に今いろんな事業やっていますね。よく一言でイロエロやっていますと言っています。

石崎：これ、さっき出てきましたね。

柳田：イロエロというと、エロもやっているんですか。

吉川：そうです。本と DVD のリサイクルショップがどちらかっていうと大人向けのアダルト寄りの商品が、それが多いで、それでイロエロと言っています。

石崎：その店舗数が日本屈指の店舗数を持たれているんですね。

柳田：さっきちょっといくつか出ていますけれど、こういう形で本当にお店をちゃんと構えているいろいろやられているわけですよね。

石崎：今年で何店舗でしたっけね。





吉川：今、37 ありますね。

柳田：すごいですね。

石崎：イロ、エロのほうは。

吉川：エロのほうが 23。

柳田：従業員さんってどれぐらいいらっしゃるんですか。

吉川：今、336 人です。

柳田：すごいですね。

石崎：すごいですね。

石原：すごいですね。

柳田：それ、例えば二十歳の時とかに、ご自身が 300 名の企業の社長になるっていうふうに思っていましたか。

吉川：思っていなかったですね。二十歳の時は虫になりたいって思っていたんで。

石原：何で虫になりたいかったんですか。

吉川：本当、仙人に憧れて。僕はそういう世界かなあとって。本当、根暗な青年だったんで。

柳田：それがこのライフチェンジっていうのは、どういうふうに捉えられていますか。ご自身の中では。

吉川：不思議ですよ。何か導きがあるんでしょうね。これね、きっと。

柳田：大野さんいかがですか。ここまでのストーリー一聞かれていますか。





大野：もともと持っていらっしゃるというか、私どももちろんこのライフチェンジってことを提唱していますけども。このプロジェクトが始まる前からもうすでにライフチェンジの道を歩まれているっていうのはすごく貴重だなと思って聞いていました。

柳田：ほかにもこれ、ちょっと会社の写真いくつかありますけれども。壁に売り上げを貼ってらっしゃって。

吉川：そうですね。

柳田：これはなぜですか。

吉川：あれは、金融機関さんとか銀行さんがよく来るんですね。銀行さん来たら、必ずあの壁に貼ってあるグラフが真正面に来るように座ってもらうんです。「すごいですね。お宅はこんなに売り上げも利益も伸びているんですね。貸します。貸します」ってなるんです。という仕組みになっています。

柳田：座った向こうに見えるようになっている。

吉川：そうです。そうです。

石崎：嫌でも目に入るというね。

吉川：そうなんです。

柳田：さすがですね。

石崎：本当、従業員の方、すごい大事にされていて。イロエロのエロのほうの倉庫を見学させていただいた時に、倉庫の仕事って結構つまらなさそうなイメージじゃないですか。すごく明るく楽しそうに倉庫の担当の方がされていたので、仕事を。やっぱ吉川イズムというか、吉川マネジメントというのはちょっとすごいものがあるなと思いましたね。

柳田：何か常に従業員さんに伝えていること、メッセージだったり、そういうのあるんですか。

吉川：そうですね。楽しく成長しようねって。「いきいきワクワク楽しく成長」ってい





うのが僕らの会社のスローガンなんで。どうやって仕事を楽しくするかとか、あとだから、未来に恋できるような、そんな会社作ろうと思ってずっとやってきました。

柳田：その結果がこの。

吉川：そうですね。おかげさまで。ですから、いろんな事業を立ち上げているのも、実は社内で転職できるようにしているんです。例えばエロの事業で、今、独身ですよ。ところが、今度吉川さん、結婚して子供も生まれましたと。子供生まれて「パパ何の仕事しているの」って言われた時にさすがに困ると。その時に、整骨院とか、セミナーの事業とか、いろんなほかの古着とか貴金属とかいろんな事業あるから、そっちにじゃあ行くってできるんですよ。そういうことも。そういうこと考えてやっていますね。

柳田：従業員さんのちゃんとストーリーを描いてあげていると。

吉川：そうです。そうです。彼らのライフチェンジにあわせて。

柳田：そうですね。まさに。

石崎：今、多くの経営者が特にリアル系のビジネスの経営者が吉川さんの会社を見学に来るっていうんですよ。それも、有料でコースになっているんですね。

吉川：そうですね。セミナー事業で1人6万円いただいているんですよ。だから、3人で来ると18万円とかなって。

石崎：でも、払っただけの価値があるぐらいのマネージメントをやっぱり会社でされているんで。こういうふうには会社って管理するんだと。

柳田：やっばどこもたぶん、社長さんは悩まれていたりとかすると思うので。

吉川：そうですね。共通の悩みですからね。そこは。

柳田：全国からやって来るわけですね。

吉川：来ますね。津々浦々。本当にありがたいことに。

石崎：なかなかユニークな経営者の方はそういないですからね。





柳田：いや、そうですね。私もちょっと本当に一度お会いただけで素晴らしいなとは思って、ぜひ今回言ってしまうとライフチェンジの本編でも出ていただけることになったわけですが、本当に多くの人に聞いていただきたいですね。話を。

石崎：駅から自分が泊まっているホテルまで全部ゴミ拾うそうですね。

柳田：すごい。それ、例えば従業員さんもやる人はやるんですか。

吉川：そうです。強制はしないんで。僕を見て「あっ、いいですね」と。「吉川さん、それ、何かいいことあったんですか」。「うん。いいことしか起こらないんだよ」と言うと、みんなやり出しますね。こないだゴミ拾いしていて、渋谷で8万円拾ったんですよ。すごいですよね。ピン札の8万円が落ちていて。はい。そういうこともあります。

柳田：確かにでも、今回の命運とか、運ってというテーマでいうと、いい運しかやってこないんじゃないかっていうか。

吉川：そうなんです。ゴミ拾いするとそう思えるようになるんですよ。

柳田：なるほど、なるほど。これは研究的にはどうですか。

石原：やっぱり結構研究所でもよく言うのが、見える世界だけじゃなくて、いわゆる意識の世界って秀才って、よく賢と雄ってという言い方を、古い日本の叡智ではしたりするんですけど。

雄のほうが実は膨大なエネルギーを持っていて。普通の人って賢の世界だけで得をしようと思って。そこでいかにいいお客さんを作るかっていうところで、お客さんがキャッチーなところのキャッチコピーですとか、あるいは文章とか、そこら辺の分かりやすいところはせっせとノウハウを構築するんですけど、一見非合理なところに時間を費やして、でも、実はこっちのエネルギーは整っているんだというところにフォーカスする人はなかなかいないんですよ。

これがちょっと命運っていう見えない流れっていうところに直結してくるテーマで。最初っからそういうところを結構押さえてらっしゃるんで。だからこそ、われわれの言語周波数というものに触れた瞬間に、即、一番結構大きなスペックのものを導入されたんですよ。その辺の話も後ほどしたいなあと思いますけれども。





柳田：吉川社長自身は、運とか命運とかってというのはどのように考えていますか。

吉川：運を良くするために行動しているのがゴミ拾いとか。だから、自分の運というのはすごく意識していますね。ゴミ拾いするのもそうだし、あとはあんまり食べないんですよ。一日一食。僕、1人では一日ゼロ食なんですけど、なかなか1人の機会がなくて。それも運を良くするため。

柳田：なるほど。大野さん、どうですか。今までのお話聞いて。

大野：ちょうど吉川さんがやっていたら、私どもでいうと、祓いていいですかね。そこにすごいつながっているんですよね。ゴミ拾いするっていうのも、それも祓いてということになりますし。祓いには余分なものを払うっていう意味もありますので、必要なもの以外口にしないっていうのも、そういったものに通じてくるかなと思っているんですけども。

今回はやっぱライフチェンジのテーマにあるのが、これはもちろんこれから出てくるお話ですけども、やっぱ祓いと鎮魂っていうテーマがありまして、また言霊ってものも後に出てきますけども。先ほど、お食事の時に肉を食べる時の吉川さんの心の言葉っていうか、ありましたけども、あれが私どもでいうと鎮魂作法なんです。そういった食べる動物の魂が静まるっていう。そういう意味合いも込めて食事の前には必ずそれをやったりですね。

あと、実は野菜をいただく時も必ず鎮魂作法をして、野菜のいろんな悪い成分って農薬とかありますけれども、それが取れて本当の味が引き出されますようにってことで、お祈りといいますか。鎮魂してから料理するっていうこともやっています。

ライフチェンジする方っていうのは基本の日頃の所作っていいですかね。要は共通点があるんだなとはすごく思うんですよね。

柳田：なるほどですね。そしていろんな縁があって研究所とも出会ってきたわけなんですけれども。もちろん、お話聞いてきた感じだと、本当に非常に事業も順風満帆なのかなあと思うんですけども。こんなものもちょっとあるということですけど。こちらはご説明いただいてよろしいでしょうか。

吉川：はい。これは、2005年に立ち上げた古着のお店で。失敗しちゃったんですね。3





年ぐらいやったんですけど、結局5年ぐらいかな。うまくいなくて。初期投資、それから累計の損失併せて4,000万ぐらい赤字を出してしましまして。その時につらい思いをしたんですね。

やっぱり店潰すのはどうってことないんですけど、そこに働く従業員の皆さんはやっぱり退職せざるを得ないとか、そういうこともあって。二度とこういう過ちを繰り返さないということで、実は本社の社長の席のすぐそばに置いて、自分を戒めるように一脚4,000万円の椅子ですってということで、その当時お店で使っていた椅子を持ってきて戒めにしています。

柳田：それから例えばこれをやってから、そういった失敗的なのは減ってたりなかったりするんですか。

吉川：そうですね。今まで30軒お店出して、閉めたのはここだけです。今のところ。

柳田：研究所でも唯一の教えが慢心しないということですけども。

石原：そうですね。慢心しないということですね、ことはありますよね。今、よく量子っていう、量子情報場とか言いますが、そういうところでいうと、その人の思いを実現しやすい、あるいはその人の思いを実現させにくい場っていうのは、それぞれあるわけなんですよ。意外とそこが見過ごされているというか。

分かりやすい売り上げ上げるためのテクニックっていうところに走りやすいんですけど、実はこうやっている間も私たちを取り巻いている、こういう空間にも、そういう情報場ってあるわけで、それ全体を整えることがすごく大事っていうところが、昔の言葉でいうと鎮魂っていうことになりますし。今でいうと、周波数という。言語周波数というところで。

見えない場を全部椅子を揃えるといいますけど、向きを従業員の人、経営者の人、あるいは地域の人、幸せになる方向に向きを揃えてあげたら、全体がきちっと結びついている言い方をしますけど、マッチングがピシピシピシとあって、結果としては周りの事業も成功するんだよということになってくるわけですね。

柳田：そっちを整えたほうが、テクニックとか売り上げのテクニックとかを必死に勉強したり実践するよりも、大事なんだろうなあとと思うんですけども。吉川さんもその





あたりがあつて、研究所とも最近密にやられているということですよ。

吉川：そうですね。

石崎：僕、これ、人生うまくいっている人、事業うまくいっている人、僕は結構吉川さんもそうだったんですけど、経営者と会う機会がやっぱりあつたりする時に、やっぱり業績のいい方ですね。今の時代っていうのは結構テクニックで走れる部分もあるんですけど、長く健全に事業をやられている方って意外に少ないんですね。数年良くてもあんまり意味はないって中で、吉川さんに最初にあつた時に、言霊の叡智にすぐ反応したんですね。

ここ最近、そういった見えない運命であつたり、命運であつたりですか、そういったエネルギーの場所ですね。量子場の場所を、何となく察知されている方が増えてきたなと。すごい素直ですね。

やはり、取り入れて、やっぱりもともと馬力がある方たちなので、結果がすごく出ると。だったら採用したほうが早いし。自分自身が採用さしていただいて、やっぱり命運が変わったと思えるような人生の展開になっているんで、吉川さんのほうもそういう実感が当然あるんじゃないのかなというふうに思いますね。

柳田：なるほどね。やっぱり経営者っていういろいろそういう、もちろん本業ありますけれども、そうやって見えない世界にすぎる部分もあるじゃないですか。誰かに相談したいって。そういった中で、やっぱりすごい経営者であればあるほど、本物の情報に行き着いてキャッチしますよね。

石崎：しますね。すごい経営者ほど、本物とそうじゃないものをやっぱり見分けますから。だから、そのへんの占い師に頼るってことはないんですね。否定はしない。頼るにしても、やっぱりすごい占い師を紹介されて、多少お金がかかってもちゃんと見てもらっていたりですか。無駄なものには近づいていかないんですけども。いいものにはある程度コストとかエネルギーかかっても、さっと近づいて自分の事業とか人生に取り入れるということを速やかにやりますよね。

柳田：何をされているかって事業だけを見ると吉川さんのやられている事業っていうのは、昔からあつたり、どちらかというと業態的には昔からあるものですよ。

石崎：ベタというかですね。そういう業界ですよ。





柳田：確かメルカリとかが出てきたりとかって中で、でも、ずっと伸びているわけですよ。

吉川：そうです。おかげさまで。

柳田：それは一言でいうとなぜですか。

吉川：やっぱり形あるものと形ないところと、両方やってきたからかなっていうのはすごくありますよね。だから、僕らは仕組みっていうのをすごく作っていて。ですから、いろんな経営者さんが全国津々浦々から来るのも、仕組み見に来るんですよ。どういうふうにやって、ホワイトボードをこういうふうに使ったりとか、どうやってマニュアル作ったりとか、仕組みもあるんですけども。その反面、また、心とか、要は見えないほうにも力入れていて。たぶん、その両面でやってきたのがすごくうまくいってきているのかなあっていうふうに思いますね。

柳田：その両面をぜひ、このライフチェンジの本編でもご登壇いただいて語っていただくと思っていますので。今日、初めて知った方もいらっしゃると思うんですけども、ぜひ本編で見たいなあと、聞いていただきたいなあとと思いますけれども。

最後にこれを見ていらっしゃる方々に、いろんな方が見ているわけなんですけれども、吉川さんからメッセージいただけますか。

吉川：やっぱり先ほど言ったように形あるものとか、そっちにとらわれちゃうとあんまり良くないのかなというふうに思っています。やっぱり形のないものとか、見えないものっていうのが、見えない世界が、本当に毎年毎年重視されてきたような時代になっています。そっちを重視して、人生もそうですし、経営も僕そうだと思っています。毎年そっちに比重がこれから傾いていくんじゃないかなと。そういうところがすごくうまくいくんじゃないかなというふうに思っていますので、皆さんもバランス良くうまくやっていただけたらなというふうに思います。はい。

柳田：はい。ありがとうございます。ということで、ゲストとして吉川さんとそして研究所の石原さんに来ていただきました。お二人、ありがとうございました。

一同：ありがとうございました。





柳田：はい、ということで。

石崎：おもしろかったですね。

柳田：おもしろかったですね。

石崎：吉川さん本当おもしろくて。吉川さんの会社に、名だたる経営者が会社見学に行くんです。本当にもうハサミの置場から全部決まっていて、びっくりしたのが自販機があるんです、会社の中に。で、社員の健康を考えるために、水とかはいいんですけど、例えばコーラのところに角砂糖の数が貼ってあるんです。

柳田：なるほど。

石崎：これだと7個入っていますよみたいな。そこまで従業員の健康にも気遣って、それでも欲しい方は飲んでね、みたいなですね。本当に多くの経営者の方が吉川流の経営を取り入れたってということで、一つのコースになっているみたいなんですよね。

柳田：これご覧になってコンタクト取りたい方もいらっしゃるんじゃないかなと思うんですけども。

石崎：そうですね。

柳田：その場合は、こちらご一報いただければ。

石崎：そうですね。またちょっと吉川さん、こちらの講座へもね。

柳田：そうですね。本講座でも。

石崎：ぜひちょっと講義、請け負っていただきたいなっていうふうに今のところは思っています。

柳田：そうですね。ですから今、経営者の方ですとかビジネスばりばりやられている方もご覧になっている方で、多分興味持ったと思うので。





石崎：ぜひ吉川さん知ってほしいです。変な話、何億も稼いでいるとかって言って、もう俺は成功者だなんて思っている人いるかもしれませんが、そういうレベルじゃないですからね。もうそこ超えてってますんで完全に。

柳田：完全にライフチェンジと。

石崎：はい、ライフチェンジしてますんで。

柳田：ということでセッション2も締めに入りたいと思うんですけども、今回も本当にすごい興味深い話が聞けたんじゃないかなと思います。

命運はもちろんあるんだけど、それを変えていくことができますよということでお話してきましたけれども。今回も最後にもう一度この質問というか、大野さんに聞いてみたんですけども。

前回、人は81回生まれ変わるというお話させていただきましたが、今回は人はなぜ81回生まれ変わるんでしょうかという事を、最後に大野さんに聞いてみたいと思います。

大野：いろんな表現があろうかと思うんですけども、要は人間という存在を味わい尽くすってことだと思えます。あらゆることを味わい尽くした後は、自動的に卒業といますか抜けることになるので。逆に執着があると、またこちらに戻ってこないといけないわけですよ。あるいは人に取りついたりとか、いろいろパターンはありますが。ですからしっかり味わうと自動的に抜けると。

子どももそうですよね。例えば赤い消防車とかおもちゃで遊んでるけれども、いずれ手からぽとぽと落として見向きもしなくなるってことがあったり。あるいは皆さんもいろんな趣味の世界でさんざん徹底的に味わった後は、もう要らないってことがあるかと思えますけども。

なかなかこの人間の世界っていうのは奥深いというか、味わい深い所がありますので、81回生まれ変わることで卒業ができる。

柳田：なるほど。早く抜けきっちゃって、本当にやりたい事を自由に選んでくださいというところですね。

柳田：ということで皆さんもいろんな想いであったり、もっと聞いてみたい事あると思





うので、そういう方はぜひこちらのセミナーのほうに来ていただきたいと思います。12月に東京・大阪そして東京で全5回予定しておりますので、今もどんどん埋まってきておりますけれども、早めにお席を確保していただきたいなというふうに思います。そして直接にいろいろ聞いていただければなど。

そして体験セミナーだけではなくて、今回のその本プログラムですね。本プログラムのほう説明会も兼ねておりますので、ぜひそのつもりで来ていただきたいというふうに思います。ということでセッション2ありがとうございました。

石崎：ありがとうございました。

柳田：次回はこちらになりますけれども、さっきの話の続きではありますが、過去生・未来生も含めて今生の100年、今の人生の100年を生き切るという、いよいよ核心的なお話をさせていただければなというふうに思います。  
ということで今回も石崎さん、大野さん、ありがとうございました。

石崎：ありがとうございました。

柳田：皆さんもご視聴ありがとうございました。






最後までお読みいただき、ありがとうございました。

Session 2 をご覧いただいたのコメントをお願いします。

今回は以下の質問への回答をお願いいたします！

出来れば、全てコメントいただきたいですが、何でも結構です。


まずはコメントすることが大事ですので、ほんのちょっとでも投稿してください。



**1, Session 2 でのあなたの学び**

---

**2, 石崎さん、大野さんに聞いてみたいこと、  
2人へのメッセージ**



コメントいただいた方には、下記をプレゼントいたします。

## Session 2

### 「運命を変えて幸せに生き切る方法」完全版

を差し上げます。

さらには!!

### 運命を変えたゲストとしてご登壇いただいた 『吉川社長との本音座談会動画』

もプレゼントいたします！

本編では語られることのなかった本音の話を  
吉川社長からお聞きした特別収録版です。

☆コメント、コメント特典のご請求はこちらから☆

⇒ [http://the-life-change.jp/fn/?page\\_id=620](http://the-life-change.jp/fn/?page_id=620)

